

市長の政治方針を問う

赤川 堅一郎

重点施策を問う

問 五十嵐市政4年の折り返しとなる新年度予算編成にあたり重点施策を問う。

答 「雇用創出」、「農業を中心とした地域資源の活用」により産業支援の強化を図るとともに「子育て支援」、「障害者自立支援」、「元気な高齢者づくりの推進」などの市民福祉の向上並びに都市基盤の整備に努めるの両輪としての「集中改革プランの着実な推進」により基礎的な財政収支の黒字化をめざし、持続的な財政運営に努めてまいりたい。

雇用促進と企業誘致について

問 企業誘致対策と専門窓口の設置と対応を問う。

答 県外の企業誘致については、県が主催する東京や名古屋で開催する企業リッチセミナーに参加し、横手市のPR活動を開催、地区の企業情報収集に努めており、また県とも連携して個別の企業訪問を実施している。

平成20年度には企業誘致の専

門員設置も検討、誘致情報をいち早くキャッチできるようにしたいと考えている。

区長制度について

問 間もなく2年の任期を迎える区長制についての今後の方針についてどのように考えているか。

答 合併時の約束に基づき平成22年3月までは各地域に区長を配置し将来の市民協力を確たるものにするため残された期間取り組んでいきたい。

平成22年4月以降については、今後みなさんと相談しながらその方向を決めるべきと考えている。

後三年の役について

問 平安の風わたる公園への案内板の設置並びに金沢公園兜杉の保存対策について。

答 金沢柵史跡保存など整備の方向性を検討するなかで対応したい。貴重な歴史的文化的遺産を観光資源として活かしていきたい。

区長制の今後の方針は

播磨 博一

区長制度について

問 「合併した良さ、合併効果が感じられない。」こうした声が市民からよく聞かされる。私は地域住民の不安解消・地域の特性を活かしたまちづくりができるようにと各地域局に置いたものと理解している。全市民協働による一体的なまちづくりを進めるためにも、任期が間もない区長制度はまだ必要だと思つて。そこで、この2年間の総括と今後の方向性を伺いたい。

答 区長を設置しての行政運営は初めての経験で、どうすればその効果がだせるか、試行錯誤の2年間であった。

各区長は市の最高方針・重要施策の審議にも参加し、地域局のごとく全市民的な考え等を発言、それらを踏まえ行政運営を行なってきた。

今後も地域の皆さんが自ら地域のことを考え行動できるように区長の積極的な関わりを期待し、1月1日に就任できるように準備を進めている。

どう活かす全国学力調査

問 児童生徒の学力・学習状況各教育委員会・学校等が全国的にどうなのか、こうした調査が昨春行なわれ、その結果が公表された。結果は秋田県が小・中学校ともトップクラスとのこと注目されたが、「横手市はどうであったか」ということは市民に対して報告されるのか。また、これがどういう形で活かされていくのか、その取り組みについて伺いたい。

答 学力は県の平均を上回っているが今後の課題もあるので、各学校の分析と改善策を取りまとめ、学校・生徒の学力向上に向け指導、助言してまいりたいと考えている。公表は横手市教育センターに開設しているホームページに掲載して市民へお知らせしたい。ただし、今回の調査は学力の特定の一部であり、誤った評価に繋がることを考慮して数値の公表はいたさない。

その他の質問

補助金の整理合理化について